

賞 詞

歩兵第四十五聯隊第三大隊第十一中隊
独立山砲兵第二聯隊高橋中尉の指揮す

る一小隊(一分隊欠)

右者昭和十二年十二月 第六師團南京攻略に方り敵
の退路を遮断すべき任務を有する歩兵第四十五聯隊が揚
子江支流爽江右岸堤防道に沿い敵線の既設陣地により如
強に抵抗せる敵を粉碎しつつ北上し 十二日夜半迄に上
河鎮を占領せし敵を撃退し 十三日未明第二大隊を以て
右追撃隊とし 主力之に跟随し、江東門を経て下関に
向うに方り 左追撃隊となり十三日午前六時三十分黎明
を衝いて上河鎮西南約千米揚子江右岸に沿う堤防道の無
名部落を北進せんとするや 突如約二方に達する敵大縦
隊に会し 茲に不期遭遇戦を惹起せり 中隊長以下先ず
敵の先頭に向い猛烈なる突撃を敢行し 次で狭小なる道
路両側に展開し 優勢なる自動火器と多数を恃み喊声を
挙げて喇叭を吹奏し 猛烈に包囲間断なく突進し来る敵
に対し断乎として之に決死的攻撃を加え 山砲分隊又敵
の猛射を浴びつつ前方側方後方に向い猛撃を加へ 遂に
歩砲弾葉尽きるや 自兵を揮い或は敵の兵器弾葉を奪い
て戦闘し 戦死十六名負傷二十六名を生じたるも毅然と
して寡兵よく敵の参謀長以下二千余名を射殺或は刺殺し
且軍旗 二旒を奪い 敵に殲滅的打撃を与へ
敵南京守備軍の退路を遮断し 其の死命を制したり
其の功績は特に顕著なりと認む 依つて茲に之を賞す

昭和十二年十二月十七日

第六師團長

谷

寿

夫

花押